

日本においてシステムを統合し「つなげる」ことができるインテグレータや、企業内ノウハウが不足しており、インテグレータの育成が重要である

【システムインテグレータの不足】

- そもそも我が国では、通常工場内の制御ネットワークは基幹系ネットワークとはつながっておらず、独立している例が大多数である。そもそも両者を連携させる目的意識がないことがその最大の要因と考えられるが、加えて、両者をつなぐインテグレータが不足しているという課題も存在している。我が国のシステムインテグレータはそのほとんどが中小企業であり、そのノウハウも、基幹系(IT部門)のインテグレータと制御系(FA部門)のインテグレータに分かれている。その一方、基幹系と制御系の連携を進めるには、双方のインテグレータを横断的に統括し、コーディネートできる統合インテグレータ(欧米ではラインビルダーと呼ばれる)の重要性が増す。このようなプレイヤーの不足は、我が国製造業にとって大きな問題となっている(図)。特に、大企業では生産技術部門が機械とIT双方の知識を有しており、ラインビルダーの役割を担うことができるため、必要な部分インテグレータを外部から適切に調達することで双方のシステム間の連携を実現しているが、中小企業にはそういった人材やノウハウが存在しないケースが多く、したがって現場の制御系ネットワークを基幹系ネットワークにつなぐ仕組みをコーディネートすることができないのである。



出所:ものづくり白書(経済産業省)